

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493700544	事業の開始年月日	平成30年4月1日
		指定年月日	平成30年4月1日
法人名	有限会社 タワラ		
事業所名	「結」ケアセンターあおば		
所在地	(227-0065) 横浜市青葉区恩田町2599-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年8月15日	評価結果 市町村受理日	令和5年7月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かで緑豊かな環境に位置し穏やかに過ごせます。コロナ化の中ですが日常的な買い物や散歩など外出の機会を多く持てるように工夫しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年9月29日	評価機関 評価決定日	令和4年10月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は東急田園都市線「青葉台」駅より、バス10分ほどの苗万坂（なえまんざか）バス停で下車し徒歩5分の場所にあります。周囲は自然豊かな緑地、田畑、住宅、複合型ストアなどがあり、散歩や買い物を楽しむことができるようになっています。

<優れている点>

利用者が生活の中で楽しむことができる工夫を行っています。コロナ禍であるにもかかわらず、月に1回イベント・レクリエーション日を設け季節の行事や、外出、食を楽しむことができるようにしています。アジサイ見学、菊見、初詣や、ピザ、そうめんを作るなど利用者が楽しめる支援をしています。コロナ禍により全員で出かけることは控えていますが、誕生日には利用者の希望を聞きファーストフードや寿司を食べに出かけたり、利用者が以前住んでいた場所を車でドライブするなどの外出支援も行っています。また、敷地をパン屋、豆腐屋などの移動販売業者に開放し利用者が買い物を楽しむことができるようにしています。

<工夫点>

介護マニュアル評価表を作成しています。介護に関する排泄、食事介助など様々な手順を記載するとともに、手順に関する自己評価のチェックポイントを記載し、公明正大な評価制度を確立しています。管理者、フロアリーダーの複数で職員の評価を行い、評価内容は本人にも公表し、結果を次の目標に掲げるなど、モチベーションの向上にも繋げています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	「結」ケアセンターあおば
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員に見える場所に掲げ理念を常に意識できるようにしている。	法人の共通理念を事業所内に掲示すると共に、事業所としての行動指針を作成しています。今年度4月に職員で話し合い作成した指針は「活気ある雰囲気の良いグループ」としています。職員、利用者全員で気持ちのいい挨拶ができるように努めています。	4月の職員会議で今年度の行動指針を決めていますが、会議で決めたのみで職員に浸透していないのが実情です。法人理念を基にした事業所の行動指針が職員に周知され実践されることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩や買い物に入居者様と外出し地域の方々と交流の機会が持てるように努めています	コロナ禍ですが、徐々に地域との交流を増やしています。法人全体で行っている「子ども食堂」を開始しています。9月1日には備蓄品を近所に配付し大勢の人の参加を得ています。2回目は利用者と共にカレーライスを作り、子どもたちに提供する予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々が相談に来て頂けるように制限はあるものの施設見学等はいつでも受け入れ出来るようにしています		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議はコロナの影響もあり開催しておりません。(欠席の連絡あり)	コロナ禍の為、運営推進会議は開催には至っていませんが、2ヶ月に一度、事業所の活動報告書を作成し、関係者に手渡しをしています。活動報告書には健康管理、事故報告、改善策などを記載しています。機会があれば、集会議を開催したいと考えています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区役所の保護課担当者と連絡を取り合い支援しています。	青葉区担当者からは、コロナ感染症に関しての備蓄、予防接種状況などの問い合わせや名簿の提出に関する連絡を行っています。また、感染症、認知症に関する勉強会開催の連絡もあり、職員の参加を検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は基本しない事となっておりますが、入居者様の危険回避の為に、やむおえず拘束ベルトの着用をしております。	身体的拘束適正化の指針、マニュアルがあり、それに沿って利用者への対応を行っています。月に1回ミーティングで利用者の状態、気持ちなどを話し合い、対応策を考えています。経過、話し合いの内容は運営推進会議用報告書にも記載し、運営推進会議の出席者も確認できるようにしています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	言葉かけの内容や介助の内容が適切かどうか、スタッフ同士で確認し、入居者様に不快の無いよう努めています。	オンライン研修により、職員全員が虐待について学ぶことができるようにしています。気になる言葉かけ、介助内容がある場合には、その都度ミーティングで話し合い、その場に相応した言葉かけ、介助を検討しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人について、スタッフにも学ぶ機会を作る機会を設けなければなりません。今回は実施していません			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時にご本人やご家族に説明し契約に対し不安の無いようにしている。			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話にて、生活の報告やご家族様の要望を聞かせて頂き運営の改善に努めています。	コロナ禍の為、家族の訪問は自粛していましたが、現在は1日2名の来訪を可能としています。利用者の様子は電話で家族に伝えていきます。家族からは食べ物について、衣替えなどの意見が出ています。事業所としてできる事に対応するよう心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロアミーティングを行い、スタッフの意見や提案を共有しています。。	日々の業務の中、月1回のフロアミーティング、年2回の個人面談などで管理者は職員の意見を聞いています。職員から出ている、掃除の方法、行事、利用者家族への便りなどについての意見を反映しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇用が安定してきた。そのため、休暇取得も本人の希望に添えるようになってきています。	職員に年2回、個人面談を行い、介護マニュアル評価表で評価をしています。評価内容は本人にも公表し職員のモチベーションに繋がるようにしています。メンタル相談窓口、有給休暇の取得など就業環境の整備を行っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スキルアップを求める職員には外部研修の支援を行っている。 内部研修も行い介護力の向上に努めている。	職員の専門性を高めるため初任者研修、認知症実践者研修などを受講する職員の支援を行っています。新しい職員には、法定研修に関しては経験者が指導員となり、職員全員がオンラインによる研修を修了することができるような仕組みにしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナの影響もあり交流の機会をもちません		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人様と入居前より面談・アセスメントを行い、安心して施設で生活出来るよう関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前よりご家族様の要望を聞かせて頂き、不安なく信頼して任せて頂けるような関係づくりを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人の意思を尊重出来るようにご家族様と入居時に意見交換し、他の部署とも連携を図り必要な支援を行うように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご自分の身の回りの事や出来る家事仕事はお願いして手伝って頂いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナの影響もあり面会の機会が減りましたが、電話での交流を持ち続けていただきました。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナの影響もあり面会の機会が減りました	コロナ感染症の影響もあり、家族との面会、外出などの機会が減り、関係継続の支援が難しくなっています。家族に電話を入れ、利用者の様子を伝えたり、会話ができるような支援を行っています。利用者が以前住んでいた場所をドライブで見て回るなどの外出支援も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性をスタッフは把握し、口論になりそうなどきなどは間に入り円滑な関係づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居や逝去された方のご家族様には、手紙を出し経過を知らせて頂いたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何事も本人の意思を尊重し、困難な方についてはミーティングで検討し対応している。	アセスメントの際や日頃の会話を通して利用者の思いを把握しています。意思表示の困難な利用者は表情や態度、仕草、笑顔などで汲み取るようにしています。生活歴や家族の協力で把握することもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族様から、出来る限りの生活歴を聞き取り対応に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	それぞれの状態を見極め、出来る事を維持できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直しをしている。カンファレンスには管理者・スタッフ・ご本人・ご家族様の意見を取り入れサービス計画を作成している。	モニタリングや計画の見直しは3ヶ月ごとに実施しています。計画書は職員や計画担当、管理者のチームで作成しています。本人や家族の意見は計画に反映しています。職員はタブレット端末を活用し、目標と実施記録をリアルタイムに共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者それぞれの生活記録やケア日誌、業務の申し送りノートを必ず確認し、口頭での申し送りを徹底しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々に合わせた歯科受診・訪問マッサージの支援をさせて頂いています。コロナの影響もあり適時によります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会に加入してはいるもののコロナの影響もあり、催し物等開催されなかった。行政が実施している公園体操には時々参加する機会を作っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族の希望があれば外部に通院して頂いています。月2回の提携医の往診・訪問歯科受診も実施しています。	全員事業所のかかりつけ医に切り換えています。月2回、内科、歯科の往診を受けています。眼科や耳鼻科などは原則家族対応で外来受診をしています。職員が対応することもあります。週1回訪問看護が来訪し、24時間オンコール体制です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護の際に、相談し指導を受け、職員全員で把握するようにしています。 24時間体制で医師、看護師と相談・連絡し、指示を受けられるように連携を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時には介護サマリーを交換し情報を提供しています。 ご家族様には入退院時に協力を頂けるようにしています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	施設としては看取りケアを実施しています。 今年に入り施設内で3人の方の看取りを行いました。	事業所の重度化に関する指針を契約時に説明、同意を得ています。看取りの際は医師や家族と協議し同意書を交わし、看取り介護計画書を作成して行うなどの仕組みが出来ています。職員の看取りに関する教育を実施するなど今後の対応に備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	急変時にはスタッフ間の連携を行い、24時間提携しているクリニックに連絡をし、指示を仰ぐように徹底している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練を実施しています。	避難訓練は夜間対応も含め年2回実施しています。法人管理の元、食料や飲料水の備蓄を3日分確保し、リストを作成してしています。ヘルメットやスコップ、ラジオ、ランタン、コンロなどの災害用備品も備えています。	高齢者施設は災害時、地域の協力が重要です。町内会への協力要請や近隣への訓練のお知らせ、近隣の災害時には施設の開放などの情報発信など日頃から地道な取り組みが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	目上の方として敬い、適した言葉かけを心がけています。	プライバシーや接遇の研修を行っています。入浴や排泄時にはドアの開閉や声の大きさなどには注意し、自尊心を損なうことのないよう気を付けています。居室に入る際のノックと声掛けを励行しています。利用者への呼称はさん付けをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人に理解できるようにゆっくり説明し、決定して頂くようにしています。 ご自分で判断が困難な場合は本人本位で考えミーティングで決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間は決めてあるが、その他の時間は一人ひとりのペースで過ごしていただいています。 レクリエーション活動への参加は強制はせず、本人の意思で決めて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自己決定を尊重しながら、季節に合った装いが出来るように支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や片づけ等手伝えることは声を掛けながらスタッフと一緒にして頂いている。食事形態も個々に合わせて提供しています。	献立や調理は外部に委託しています。利用者の形態に合わせて調理提供しています。朝食は手作りで提供しています。雛祭りや七夕、納涼祭、敬老の日などの行事食は職員、利用者が一緒に作り楽しみとなっています。食器洗い、お盆拭きなどは利用者が交代でしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	生活記録を基に、水分や食事量の把握に努めて適切な支援を行っています。不足している場合は、ご家族様に好みの物を持ってきて頂き提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの支援を行い、毎日の口腔ケアセットの消毒や夜間の義歯の消毒も行っています。必要な方には訪問歯科の支援もしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中はトイレでの排泄を心がけています。個々の排泄リズムをつかみ声を掛け、必要な方は定時での排泄介助を行っています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導をしています。自宅でおむつを使用していたが入居後リハビリパンツに改善した利用者もいます。早めに声掛けを行い、失禁をなくす支援をしています。失禁者がいた場合にはさり気なく居室などに誘導し対	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	生活記録から排便の有無を確認し、便秘傾向な方には水分摂取の工夫や歩行リハビリ等体を動かす機会を持って頂いている。必要に応じ医療と連携を図り下剤を服用頂いている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	定期的に入浴できるようにしています。入浴の希望を伺いながら個々に応じて支援しています。入浴拒否のある方は、スタッフを変えたり、声かけの工夫で入浴で着るようにしています。	入浴は週2回としています。時間などの希望には応えています。入浴の嫌いな人には時間や日、職員などを変えるなど、無理強いせず促しています。菖蒲湯やゆず湯の楽しみもあります。自分のシャンプー、化粧品を持ち込み楽しんでる人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室の温度、音、照明等に配慮しながら安眠できるよう支援しています。 必要な方には医療と連携を図り眠剤を処方して頂いています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬はセット・配薬・確認の3回チェックを行い、配薬時にはご本人の前で読み上げ確認し服薬してもらい誤薬の無いよう注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味活動や歌の会の開催等、意欲的に取り組めるものを提供できるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や買い物の同行、外食支援・地域の催しへの参加等、ご家族との外出以外でも外へ出る機会を作るようにしています。	コロナ禍であっても閑静な住環境では、散歩は毎日実施しています。ドライブを兼ね桜見物や利用者の自宅周辺にも出かけています。外出の自粛中の事業所では四季折々の行事で楽しむ機会を積極的に作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	契約により事業所では現金のお預かりはしておりません。何か購入されたいときは立替をしております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を書ける方は少ない。 電話は携帯電話を持っておられる方もいる。その他の方は職員が取り次ぐようにしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの壁面飾りを毎月入居者様と一緒に製作している。 行事や外出時の写真をフロアに掲示している。	食堂兼リビングは明るく、広く、テーブルやイス、テレビ、ソファはゆったりと配しています。コスモスの貼り絵やひまわりの花があり季節を感じる工夫をしています。オープンキッチンでは、調理の音や匂い、食器洗いなどの五感の刺激があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングで皆さんと過ごしたり、居室で一人の時間を持てるようにしている。 入居者様の人間関係も複雑なので座席は配慮しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使っていた馴染みの物を持ってきて頂き、居室での読書や裁縫等趣味活動が出来るように用意して頂いています。	エアコンやベッド、照明、クローゼットは事業所で備えています。他は持ち込み自由となっています。テレビや縫いぐるみ、写真、化粧台、位牌、本など馴染みの品を揃え居心地よく過ごせる居室となっています。掃除は利用者や職員と一緒に毎日しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室、浴室、トイレ等のドアに分かりやすいように名前表示したりしています。		

事業所名	「結」ケアセンターあおば
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員に見える場所に掲げ理念を常に意識できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩や買い物に入居者様と外出し地域の方々と交流の機会が持てるように努めています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々が相談に来て頂けるように制限はあるものの施設見学等はいつでも受け入れ出来るようにしています		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議はコロナの影響もあり開催しておりません。（欠席の連絡あり）		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区役所の保護課担当者と連絡を取り合い支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は基本しない事となっておりますが、入居者様の危険回避の為に、やむおえず拘束ベルトの着用をしております。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	言葉かけの内容や介助の内容が適切かどうか、スタッフ同士で確認し、入居者様に不快の無いよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人について、スタッフにも学ぶ機会を作る機会を設けなければなりません。今回は実施していません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時にご本人やご家族に説明し契約に対し不安の無いようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話にて、生活の報告やご家族様の要望を聞かせて頂き運営の改善に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロアミーティングを行い、スタッフの意見や提案を共有しています。。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇用が安定してきた。そのため、休暇取得も本人の希望に添えるようになってきています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スキルアップを求める職員には外部研修の支援を行っている。 内部研修も行い介護力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナの影響もあり交流の機会をもてません		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人様と入居前より面談・アセスメントを行い、安心して施設で生活出来るよう関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前よりご家族様の要望を聞かせて頂き、不安なく信頼して任せて頂けるような関係づくりを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人の意思を尊重出来るようにご家族様と入居時に意見交換し、他の部署とも連携を図り必要な支援を行うように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご自分の身の回りの事や出来る家事仕事はお願いして手伝って頂いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナの影響もあり面会の機会が減りましたが、電話での交流を持ち続けていただきました。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	コロナの影響もあり面会の機会が減りました		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性をスタッフは把握し、口論になりそうなどきなどは間に入り円滑な関係づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居や逝去された方のご家族様には、手紙を出し経過を知らせて頂いたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何事も本人の意思を尊重し、困難な方についてはミーティングで検討し対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族様から、出来る限りの生活歴を聞き取り対応に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	それぞれの状態を見極め、出来る事を維持できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直しをしている。カンファレンスには管理者・スタッフ・ご本人・ご家族様の意見を取り入れサービス計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者それぞれの生活記録やケア日誌、業務の申し送りノートを必ず確認し、口頭での申し送りを徹底しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々に合わせた歯科受診・訪問マッサージの支援をさせて頂いています。コロナの影響もあり適時によります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会に加入してはいるもののコロナの影響もあり、催し物等開催されなかった。行政が実施している公園体操には時々参加する機会を作っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族の希望があれば外部に通院して頂いています。 月2回の提携医の往診・訪問歯科受診も実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護の際に、相談し指導を受け、職員全員で把握するようにしています。 24時間体制で医師、看護師と相談・連絡し、指示を受けられるように連携を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時には介護サマリーを交換し情報を提供しています。 ご家族様には入退院時に協力を頂けるようにしています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	施設としては看取りケアを実施しています。 今年に入り施設内で3人の方の看取りを行いました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時にはスタッフ間の連携を行い、24時間提携しているクリニックに連絡をし、指示を仰ぐように徹底している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練を実施しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	目上の方として敬い、適した言葉かけを心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人に理解できるようにゆっくり説明し、決定して頂くようにしています。 ご自分で判断が困難な場合は本人本位で考えミーティングで決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間は決めてあるが、その他の時間は一人ひとりのペースで過ごしていただいています。 レクリエーション活動への参加は強制はせず、本人の意思で決めて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自己決定を尊重しながら、季節に合った装いが出来るように支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や片づけ等手伝えることは声を掛けながらスタッフと一緒にして頂いている。食事形態も個々に合わせて提供しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	生活記録を基に、水分や食事量の把握に努めて適切な支援を行っています。不足している場合は、ご家族様に好みの物を持ってきて頂き提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの支援を行い、毎日の口腔ケアセットの消毒や夜間の義歯の消毒も行っています。必要な方には訪問歯科の支援もしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中はトイレでの排泄を心がけています。個々の排泄リズムをつかみ声を掛け、必要な方は定時での排泄介助を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	生活記録から排便の有無を確認し、便秘傾向な方には水分摂取の工夫や歩行リハビリ等体を動かす機会を持って頂いている。必要に応じ医療と連携を図り下剤を服用頂いている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	定期的に入浴できるようにしています。入浴の希望を伺いながら個々に応じて支援しています。入浴拒否のある方は、スタッフを変えたり、声かけの工夫で入浴で着るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室の温度、音、照明等に配慮しながら安眠できるよう支援しています。 必要な方には医療と連携を図り眠剤を処方して頂いています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬はセット・配薬・確認の3回チェックを行い、配薬時にはご本人の前で読み上げ確認し服薬してもらい誤薬の無いよう注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味活動や歌の会の開催等、意欲的に取り組めるものを提供できるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や買い物の同行、外食支援・地域の催しへの参加等、ご家族との外出以外でも外へ出る機会を作るようにしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	契約により事業所では現金のお預かりはしておりません。何か購入されたいときは立替をしております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を書ける方は少ない。 電話は携帯電話を持っておられる方もいる。その他の方は職員が取り次ぐようにしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの壁面飾りを毎月入居者様と一緒に製作している。 行事や外出時の写真をフロアに掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングで皆さんと過ごしたり、居室で一人の時間を持てるようにしている。 入居者様の人間関係も複雑なので座席は配慮しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使っていた馴染みの物を持ってきて頂き、居室での読書や裁縫等趣味活動が出来るように用意して頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室、浴室、トイレ等のドアに分かりやすいように名前表示したりしています。		

2022年度

事業所名 信濃市センターあおほ

作成日：2022年 7月 8日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		昨年度より子ども食堂開催などにより少しずつ地域との交流の機会が増えつつある。今後も季節イベントなどを通じて機会を増やしていく。	気兼ねに訪ねて来ていただける雰囲気をつくる。近隣住民の方々と行き交う時に気持ちの良い挨拶を交わしていく。		ヶ月
2		面会・外出制限の緩和により御家族様の来設機会が増えて来てはいるが、なかなか機会を作る事が出来ない方々もいるので、手紙や電話で近況報告を行う機会をつくる。	御家族様に入所者様の日頃の様子・状況を手紙や電話で伝える内容を充実させ、御家族に安心していただける様にする。		ヶ月
3		求人募集をして職員を採用しても人員がなかなか定着しない。	業務を効率的に行えるように見直しをして職員が働きやすい環境整備に努める。まずは中堅職員との育成・結束力を強化する。		ヶ月
4					ヶ月